



戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第3期

スマートモビリティ・プラットフォームの構築

【サブ課題Ⅰ】モビリティサービスのリ・デザイン

ナラティブで編まれる地域交通コミュニティ形成と人材育成プログラム

「モビリティをみんなで考える」コミュニティを育む

筑波大学 システム情報系 社会工学域 教授 谷口綾子

国立大学法人筑波大学
独立行政法人国立高等専門学校機構 呉工業高等専門学校
株式会社オリエンタルコンサルタンツ
一般社団法人北海道開発技術センター

2-1 研究開発の全体構造

研究開発の 全体構造

大テーマ

地域交通の

人材育成 & コミュニティ形成

タスク

人材育成とコミュニティ形成の

仕組みづくり & 社会実装

対象の定義

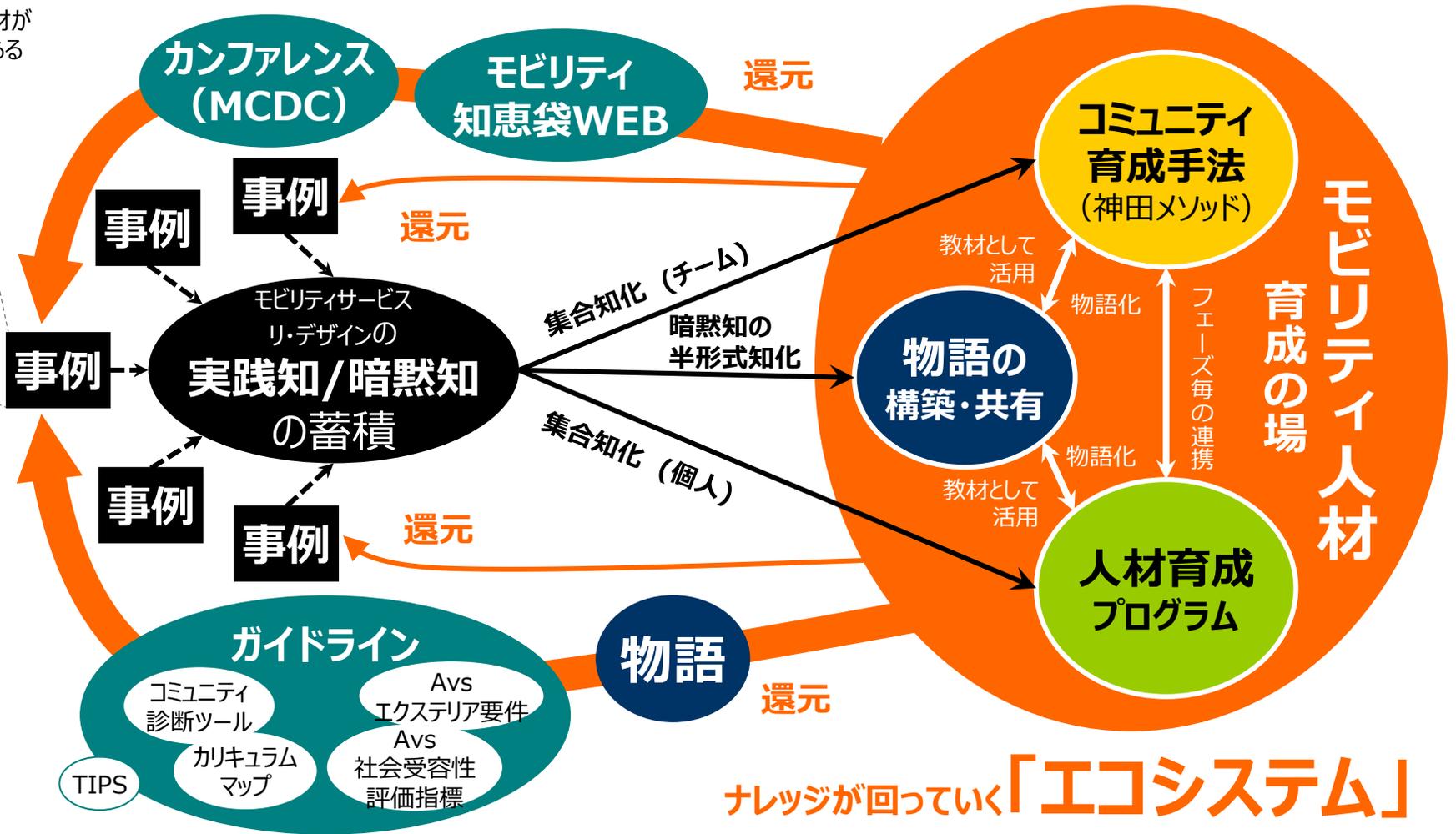
人材 地域内で活動する個人
(例：庄原商工会議所 本平専務理事)

チーム 同じ目的意識をもって活動する仲間
(例：庄原MaaS検討協議会)

コミュニティ 特定の地域内で活動するステークホルダー
(例：市民・民間事業者・役場・来訪者・外部関係者)

2-1 研究開発の全体構造

個々の事例にコミュニティと人材が存在し、実践知と暗黙知がある



ナレッジの種類と定義
 1)知識：データ、論理的、無感情■IBS
 2)知恵：経験含む、論理、知識をどう使うか●筑波大■IBS
 3)物語：感情を伝える、心に訴えかける●筑波大
 ※別の言い回し例：論理(知恵)、論拠(データ)、情理(物語)

言葉の定義
 ■形式知(明示的知識)：「客観的に捉えられる知識」「言葉や数式などの論理的構造で説明できる知識」 データも含まれる。
 ■暗黙知：経験や勘といった言語化が難しい主観的な知識：ex)このまちではあの人にお伺いを立てないと、ex)職人技、タクシードライバーが客をつかまえる勘
 ■集合知：ある共通の目的達成のために知を蓄積し活用すること。近年はWEBを使った集合知の活用事例が増加。ex)いろんな事例を集めて眺めて共通項を抽出するなど抽象化、一般化、体系化された知識・知恵。
 ■実践知：実践の場で適切な判断ができる能力。理論的にうまくいかないことでも、その場の判断でうまくやる能力。ex) アドリブ力、長嶋茂雄、臨機応変なリソース活用能力

ナレッジが回っていく「エコシステム」

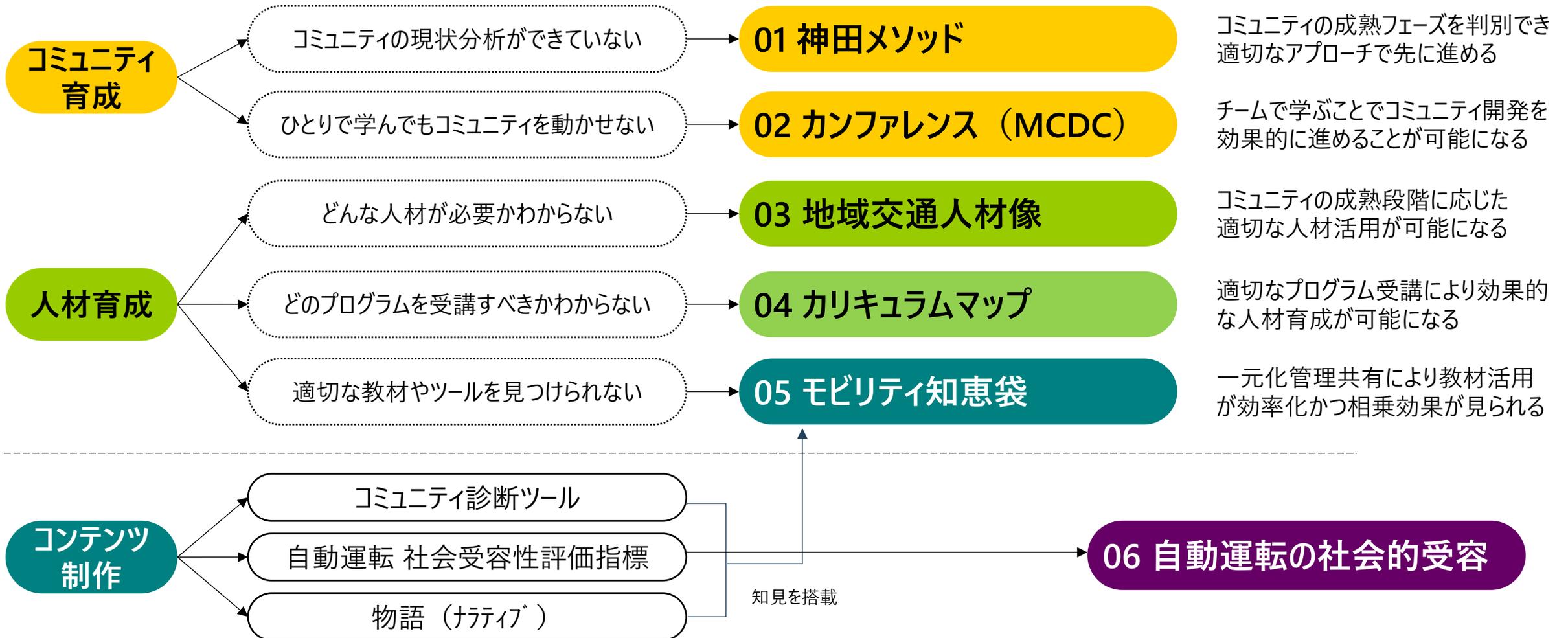
将来的にはJICA等と連携し、この「エコシステム」を
 東南アジア・中南米等のコミュニティとも共有・共創していくことを目指す

2-1 研究開発の全体構造

< 問題意識 >

< 研究開発 >

< 提供価値 >



01 神田メソッド

問題意識

コミュニティの現状分析ができていない
(どの成熟フェーズで何に躓いているか)

研究方向性

コミュニティの成長仮説を構築し、
コミュニティ育成の方向性を実践検証
(神田メソッド)

SIPでの開発内容



- ・神田メソッド素案開発 (庄原)
- ・他地域での水平展開を試行 (奥入瀬・ニセコ)

SIPにて
新たに神田メソッド
を構築、
水平展開試行中

2-3 研究開発の進捗 / 神田メソッド

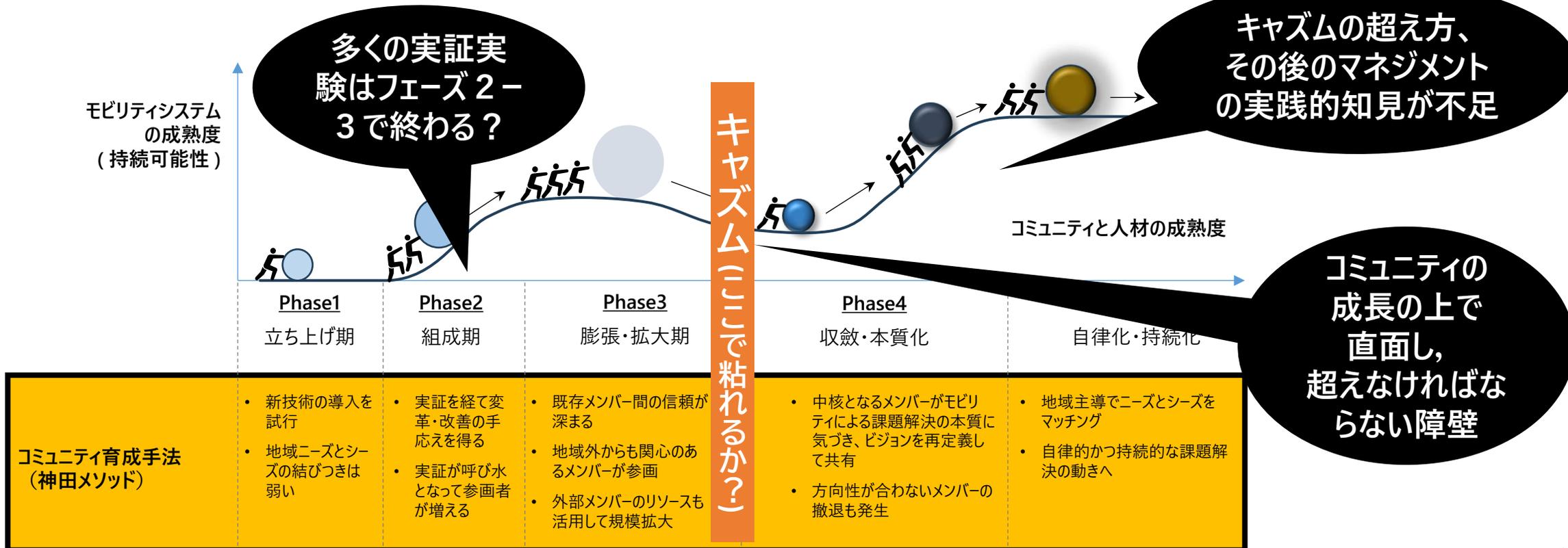
神田メソッド：仮説構築

●モビリティプロジェクトの成長プロセスの仮説

- 地域の課題解決（ニーズ）を解決に導く新たなモビリティ技術（シーズ）の社会実装に向けては、コミュニティの成長プロセスに応じたマネジメントやディレクションが必要となる。
- このプロセスを、これまでのモビリティプロジェクトでの実践や現在進行中のモビリティプロジェクト（プレーヤーとして携わる）をレビューし、SIPプロジェクトで成長仮説を構築

→ステークホルダーの多さから、時期、アプローチが不透明になる時期（キャズム）があり、ここを乗り越えられずに終了するプロジェクトが相当数ある。

→その上で、社会実装に向けて「道標」が重要であり、本成長プロセスは社会実装までの道標を示すもの。



2-3 研究開発の進捗／神田メソッド

神田メソッド：仮説構築

● 広島県・庄原地区でのコミュニティの進展経緯

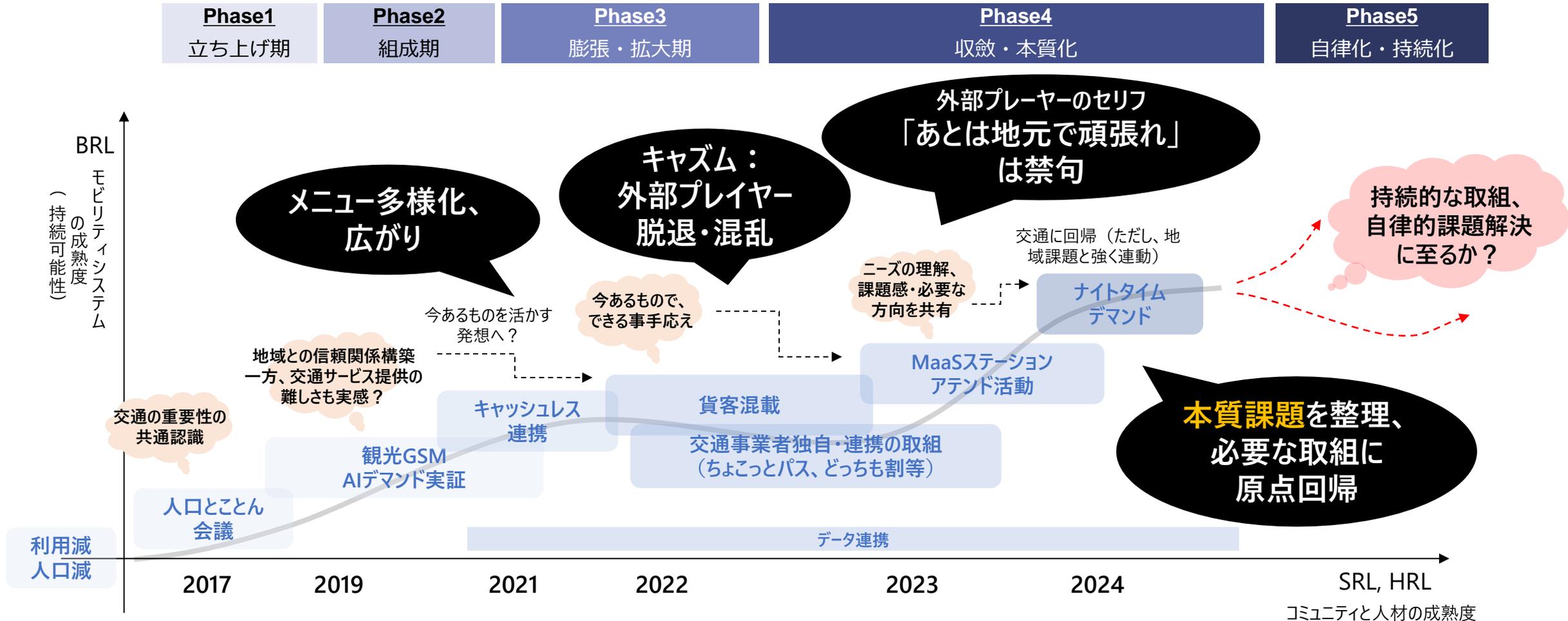
- 既に進行中のプロジェクトにプレイヤーとして主体的に参画し、特に実践知見の蓄積が少ないPhase3～5までのコミュニティ育成手法を実践検証



2-3 研究開発の進捗 / 神田メソッド

神田メソッド：仮説構築

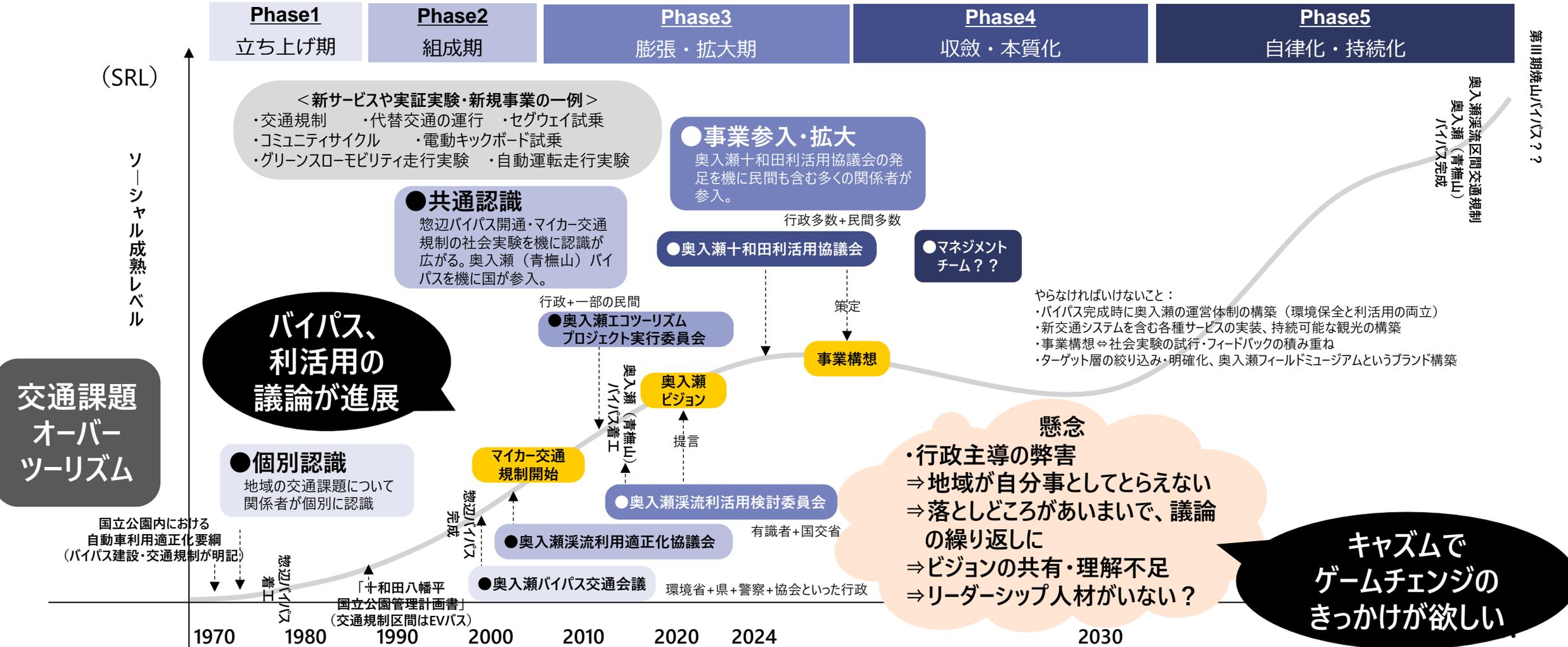
● 広島県・庄原地区の経緯整理



2-3 研究開発の進捗 / 神田メソッド

奥入瀬 (長期)

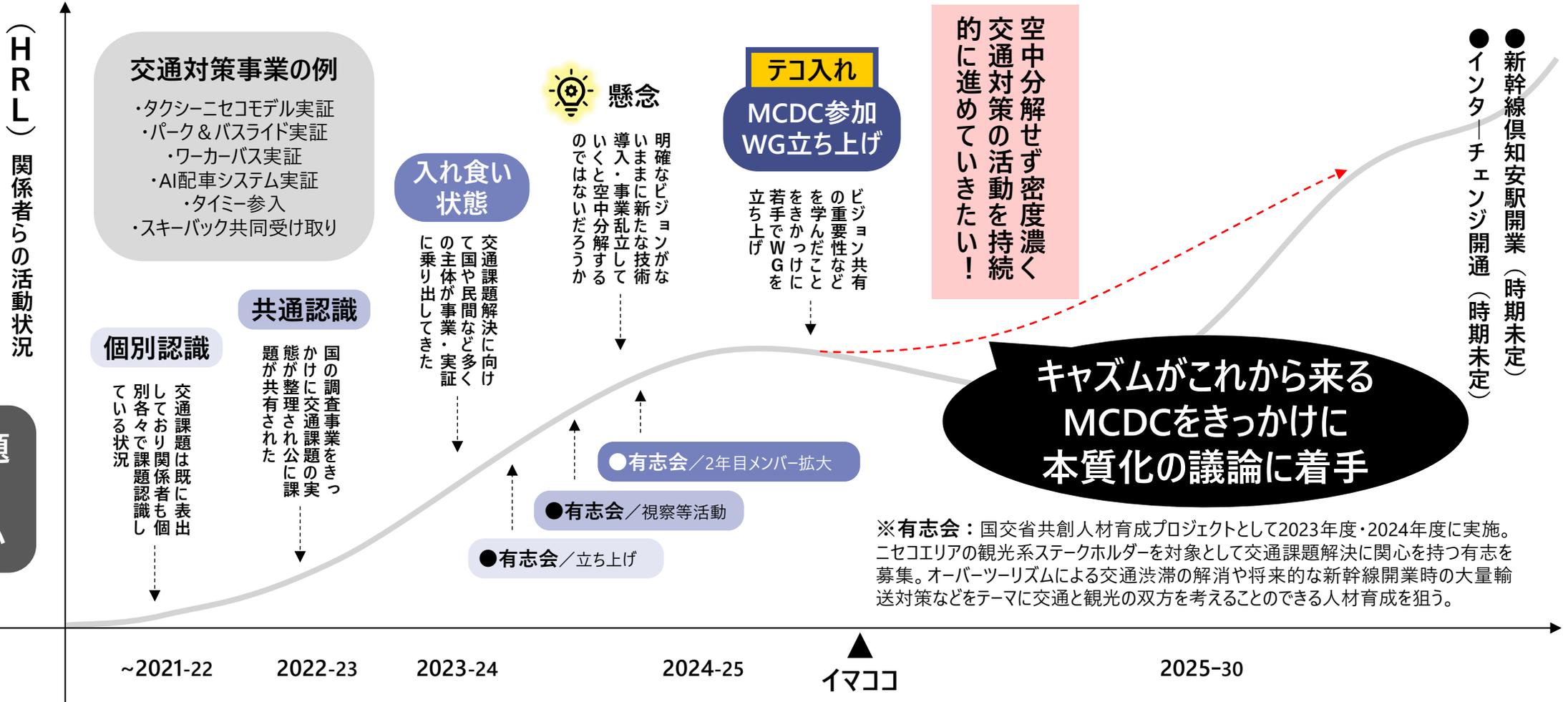
神田メソッド：他地域での試行



2-3 研究開発の進捗 / 神田メソッド

ニセコ
エリア

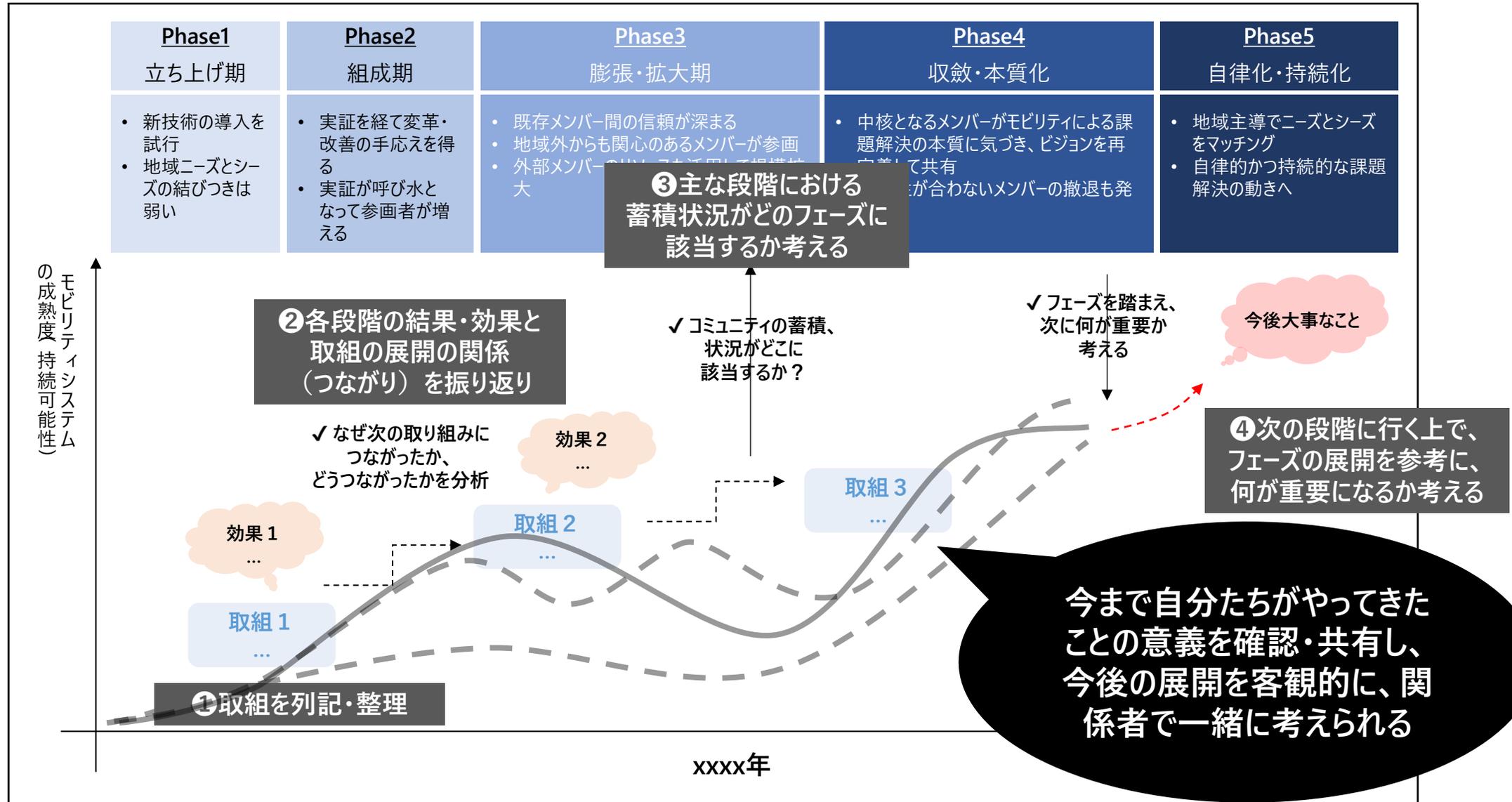
神田メソッド：他地域での試行



交通課題
オーバー
ツーリズム

2-3 研究開発の進捗 / 神田メソッド

神田メソッド：コミュニティ分析ツール作成



02 カンファレンス < MCDC* >

問題意識

ひとりで学んで地元/会社に持ち帰っても
コミュニティを動かすことが困難

研究方向性

コミュニティを効果的に育成するために
複数人・組織横断で受講する
チームビルディングプログラムの開発

SiPでの開発内容



- ・MCDCの試行と検証
- ・次年度MCDCの企画検討

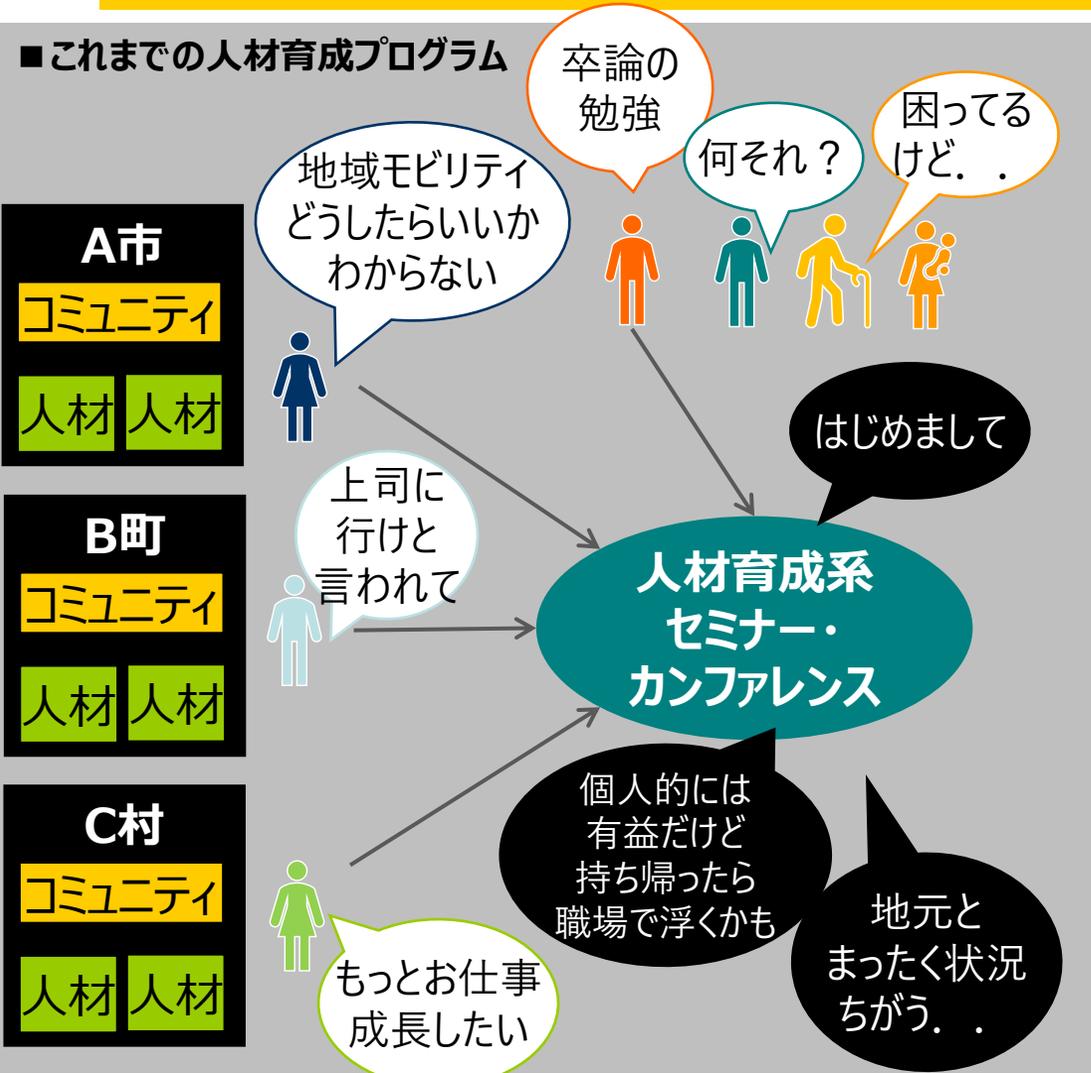
SiPにて
新たにMCDCを
企画・開発

* : Mobility Community Development Conference

2-3 研究開発の進捗／カンファレンス

全国カンファレンス：MCDC試行

■これまでの人材育成プログラム



MCDC

■ Mobility Community Development Conference



これまでにない「コミュニティ育成イベント」

例： 交通系自治体職員, 観光系自治体職員, 福祉健康系自治体職員, 交通事業者, 地域の商店主, 住民, 学生

点から線へ 線から円へ

地域交通に係る様々な“個人”が

同じ地域の“関係者たち”とともに参加してともに学ぶことで、

課題解決に向けた“チーム”へと成長していく学習の場。

それがMCDC*です。



※ 1地域 1チームで参加する

同じ地域で地域交通に係っている
異なる立場の関係者複数人でご参加いただきます。

3～5名程度での参加を推奨します。

* : Mobility Community Development Conference

2-3 研究開発の進捗／カンファレンス

チームごとに今後の
コミュニティでの
アクションを考える

全国カンファレンス：MCDC試行

Day 1 (11/5) @ 午前:庄原駅内会議室・現地 午後:ラ・フォーレ庄原

人材育成
コミュニティ
育成

9:00-9:10 趣旨・全体説明

9:10 Session 1 庄原地区のこれまでの取り組み

9:10-10:30 庄原のこれまでの取り組みの説明+質疑

10:30-11:30 現地見学

・バス車両, MaaS ステーション, よるくるでよく利用される場所, 市主...等

12:00-13:00 昼食 (ラ・フォーレ庄原)

13:00 Session 2 参加コミュニティの取り組みと悩みの共有

13:00-13:30 庄原の現在の悩み+討議

13:30-14:15 奥入瀬での取り組み+現在の悩み+討議

14:15-15:00 ニセコでの取組+現在の悩み+討議

休憩

15:15 Session 3 コミュニティ形成論

15:15-16:00 コミュニティ形成の事例

・うさぎ企画 森田創氏

・JR西日本 内藤真也氏

16:00-16:30 全体討議

休憩

17:00 Session 4 庄原包括的データ研究会

18:45- 夕食 (ラ・フォーレ庄原宴会場)

19:30-21:00 Session 5 それぞれのコミュニティの活性化方策①

Day 2 (11/6) @ 国営備北丘陵公園 ひばの郷

コミュニティ
育成

9:00 ラ・フォーレ庄原ロビー集合(備北丘陵公園へ移動)

9:40 Session 6 それぞれのコミュニティの活性化方策②

9:40-10:00 前日の議論の振り返り, コミュニティの成長論と現在位置の確認

10:00-10:50 改善策の検討

・それぞれのコミュニティの今後のアクションプラン(グループワーク)

10:50-11:15 結果の全体共有、討議

11:15 総括・まとめ

11:20 終了

地元庄原の
取組紹介

参加者の
悩み共有

コミュニティ
活動実践者
の知恵伝授

庄原
定例研究会

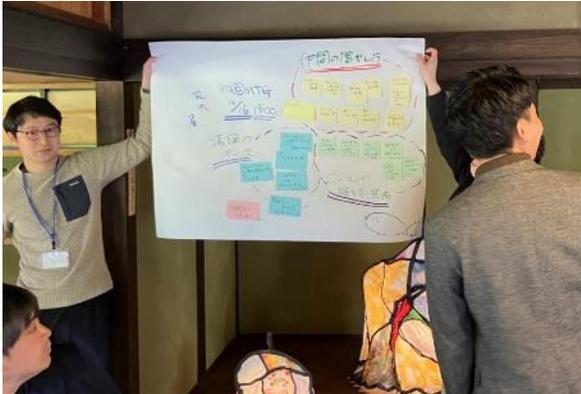
アルコール入り
本音トーク



2-3 研究開発の進捗／カンファレンス

全国カンファレンス：MCDC試行

<ニセコ>



- **もう少し議論の場が必要**
 - ・ かつりしゃべるより、小さいところから仲間をつくることを考える
 - ・ とりあえず、12月16日に今日のメンバーでの会合を実施
 - ・ **話しやすい行政と民間のメンバーで、飲みながら作戦を練るのは大事**
- **少しずつ取組ながら、ビジョン・ミッションを具体化する**
 - ・ 最終的にはビジョン的なものを
 - ・ 地域では、「アジアナンバーワン」と言っているがその中身は何なのか不明確
 - ・ このような場を通じて、**アジアナンバーワンの中身の認識を共有化する**

<庄原>



- **人口問題を考える会を振り返る**
 - ・ 人口問題の会からはじまり、MaaSをはじめ、企業・働く場所の見える化、創業塾、スマート農業、古民家の改修利用等をやって来た
 - ・ しかし、観光はDMO・市に閉じた形となり、会議所だけではマンパワー足りない
 - ・ 人口問題の会の同窓会のような形で、改めて何が必要だったか考えることが必要
- **持続的な運営組織を考える**
 - ・ 特定の分野に特化せず、**横ぐしで、行政主導ではできないことをやる組織が必要**
 - ・ 官民学が出資し、**まちづくり会社のような形を作ることが必要**
 - ・ 企業が人材育成も兼ねて人材派遣することも

官民有志で
話す場をつくり、
ビジョンを具体化

行政だけでない動きを
誰かが作っていくことが
必要

民と官で連携して
持続的に回せる仕組み
構築へ

他地域を参照しながら、
地域単位で課題を
具体化・共有

<奥入瀬>



- **誰かが突破して場をつくる**
 - ・ 同じ奥入瀬だが、それぞれの取組、あくまで県の取組、という認識が強い
 - ・ DMOも、市の予算で動いている面が強い
 - ・ もう少し緩く、研究会のような形で、**議論する場が必要**
 - ・ まちづくりが好きな先生等の学を使う、地域に入っているコンサルが自主的に場つくっていくなど、**誰かが突破する動きが必要**
- **ビジョンを来訪者にも共有できる工夫**
 - ・ 奥入瀬ビジョンは具体に共有されていない
 - ・ 店がビジョンを説明をできるような仕組みづくりも必要

成果は新聞でも報道 (R6.12.23 中国新聞)

2-3 研究開発の進捗／カンファレンス

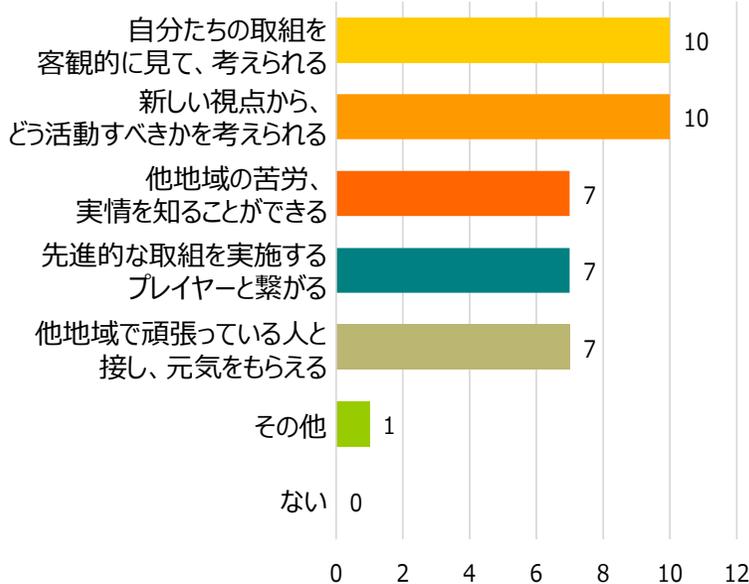
全国カンファレンス：MCDCの効果検証

地域の課題状況を踏まえた参加地域選定が重要

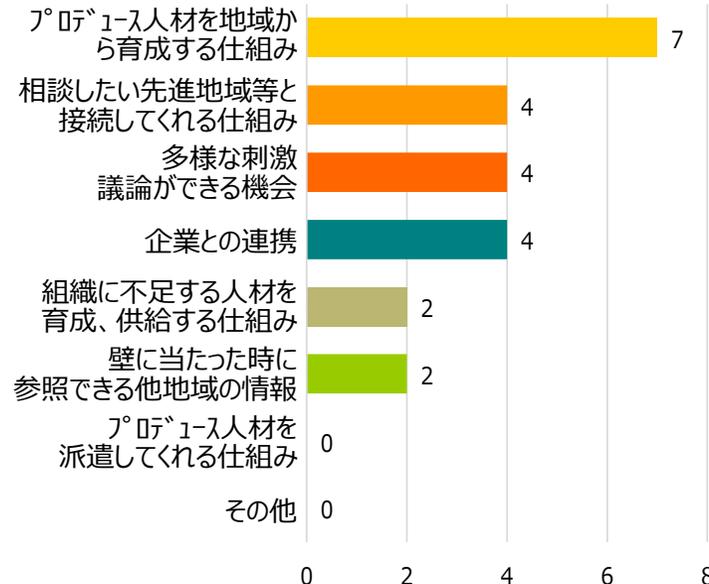
参加者アンケート

自分の地域の取り組みを客観的に評価し、方向性を検討できる機会

Q. 有効と感じた点



Q. 他地域コミュニティ形成に必要な仕組み



Q. 今後、このような議論の機会・場を設ける場合、どのような工夫をすべきか

- ・他地域の方が自地域の問題、課題に対し、意見、アドバイスをもらえる場は大切だと思います
- ・各地域の人々が混ざりあって議論する機会がもっと多いと良いと思います
- ・森田さん、内藤さんのような自らの熱意や力で切り開いていった方々の事例
- ・2~3日、もう少し時間をかけて実施したい
- ・取り組み実施の様子も合わせて視察したい

R6全国カンファレンスの成果

<結果・考察>

- ・地域間でのコミュニケーション、連携を深めていくことは、一定のニーズある可能性
- ・庄原での民間を中心としたコミュニティの取り組みが他地域の刺激に：地域の課題状況にあわせた参加地域の選定がポイント
- ・参加地域コミュニティのレベル・状況が大きく異なると、参照しづらく具体的な検討が困難になる：先進的な情報による刺激と、各地域の段階にあわせた実践情報のバランスも必要

<今後の展開イメージ>

- ・引き続き、数地域での連携の場づくりを行い、より効果的・持続的な形態を探る
 - ナレッジ（物語、診断ツール等）と連動させながら、評価・参照し、次の展開を促す機会として、機能させる（一定の型化を行う等）
 - 対象地域を拡大させながら、効果的な地域選定の組み合わせパターン模索、検証
 - 地域を混ぜたディスカッションの試行
 - 地域課題への効果的な取組につながる、多様な民間事業者と地域のシーズ、ニーズのマッチング試行等

2-3 研究開発の進捗／カンファレンス

02 カンファレンス < MCDC* >

2025年9月11日(木)-14日(日)
札幌市にて開催予定

9月12日(金)-13日(土)日本モビリティ・マネジメント会議(JCOMM)への参加をMUSTとし、
学びを深め、**神田メソッドの適用**を通じた地域モビリティを扱うチーム育成を企図

効果の定性・定量評価も実施予定

2-3 研究開発の進捗／カンファレンス

2025年9月 MCDC概要

	9.11thu Day01	9.12fri Day02	9.13sat Day03	9.14sun Day04
AM	—	9:00 情報・事例収集 ネットワーキング	9:00 情報・事例収集 ネットワーキング	チーム プランニング
PM	13:00 インプット トーク チーム ミーティング JCOMM プランニング	JCOMM参加 1日目	JCOMM参加 2日目	13:00 チーム プレゼン 15:00
EV	18:00 イブニング トーク 21:00	18:00 JCOMM 懇親会 21:00	18:00	
	TKP札幌駅 カンファレンスセンター	札幌コンベンション センター	札幌コンベンション センター	TKPガーデンシティ PREMIUM札幌大通

JCOMMで
様々な事例・
担当者の思い
を学ぶ

自分の
地域の今後を
考える

自分の地域を
考える

将来の夢：
地方運輸局単位でMCDCを開催し、
MCDC参加を国の補助金の要件
(あるいは加点)にできれば...
By 福岡大 辰巳先生のご助言

04 カリキュラム マップ

問題意識

どんなプログラムを受講すべきかわからない
(どのレベルの人は何を受けべきか?)

研究方向性

地域交通人材のペルソナ・レベル別に
適切な教育カリキュラムマップを構築

SiPでの開発内容



- ・既存プログラム研究の効果
分類・体系的に整理
- ・カリキュラムマップ素案構築

SiPにて
既存プログラムを分類、
カリキュラムマップ構築を
検討中

2-3 研究開発の進捗／カリキュラムマップ

人材育成カリキュラム：育成団体調査

● 育成団体調査

調査対象プログラム

- ✓ 下記のA), B)のいずれかを満たす取組み（プログラム・イベント）をHP上で探索的かつ継続的に収集した。
- ✓ A) 地域公共交通をテーマに、定期的開催・実施されている
- ✓ B) (地域公共交通より広い分類の) 都市交通計画をテーマに、定期的開催・実施されていて、地域公共交通をテーマとする回や科目等がある

調査項目

- ✓ 実施されている人材育成事業のプログラムの数と名称
- ✓ 収入：受講料計、公的資金（行政予算、補助金）、民間資金（賛助会員等）、その他
- ✓ 支出：講師謝金、会場費、その他備品、広報費、事務人件費、その他
- ✓ 人材育成事業に関する課題・お困り事
- ✓ 実施されてるプログラム毎に：セミナー名、目的・対象、プログラム（時間割・講師等）、開催日数、実施時期、定員、受講料、開講年

		開催時期	開催期間	参加費	内容	
モチベーションアップ・維持	1	JCOMM	8月	2日	¥3,000	MM関係者が一堂に会した情報共有・意見交換
	2	(公社) 日本交通計画協会 [エッセンシャル・セミナー]	不定期	2～3時間	無料	交通計画に関するトピックを講義形式で
	3	くらしの足をみんなで考える全国フォーラム	10月	2日	¥3,000	くらしの足に関する課題解決のヒントを得る場
	4	人と環境にやさしい交通をめざす協議会	不定期	1日	¥2,000	相互理解と問題意識の共有を目的とした場
	5	エコモ財団 EST創発セミナー	5月、11月	1日	無料	ESTの実現に向けて講演・パネルディスカッション
	6	IBS MM技術講習	10月	2日	¥12,000	モビリティ・マネジメントの技術講習
	7	再生塾 [基礎編]	5月	1日	¥4,000	持続可能なまちと交通を目指した1dayセミナー
	8	Qサポ	不定期	1日	¥1,000	地域公共交通に関する自由な意見交換
	9	コモゴモ	不定期	1日	¥2,000	他分野の専門家のモビリティ分野への越境を促す
	10	地域交通のキソを学ぶ合宿式セミナー	不定期	2日	無料	明日から何かを始めてみようという気になるセミナー
知識獲得	11	運輸局セミナー	年1～2回	1日	無料	運輸分野における補助制度などの知識を講義
	12	JCoMaaS	通年	2時間	¥150,000	産官学におけるMaaSに関する知の共有
	13	再生塾 [イブニングセミナー]	不定期	2時間	無料	モビリティに関する様々な話題を紹介
	14	再生塾 [技術セミナー]	9月	1日	¥10,000	地域公共交通政策立案のためのデータ分析
	15	再生塾 [議員セミナー]	8月等	1日	¥20,000	地方議員を対象とした地域公共交通政策セミナー
	16	国土交通大学校	8月等	数日	無料?	国道交通省の総合的な研修機関
	17	全国建設研修センター	4月、11月	数日	7万円程度	行政担当者を対象としたテーマ別セミナー
じっくり議論	18	公共交通マーケティング研究会	不定期	数時間		公共交通の課題解決に向けた考え方を適用
	19	地域公共交通コーディネーター・プロデューサー養成プロジェクト	10～1月	190分×8回	無料	
	20	エコモ財団 地域の交通環境対策推進者養成研修会	9月	3日	¥9,000	
	21	再生塾 [アドバンスドコース]	8～12月	5日	¥2,000	
みんなで議論	22	ARC/DC	年1回	2日	無料	

既存の人材育成プログラムを抽出・レビュー

2-3 研究開発の進捗／カリキュラムマップ

人材育成カリキュラム：仮説カリキュラム・マップ構築

- 研究開発成果の先行ユーザーとして政策決定者（基礎自治体）、政策立案支援者（コンサルタント）、運輸事業者を設定し、既存の人材育成プログラムを効果的に組み合わせた**仮説カリキュラム・マップ**を構築した。

研究開発成果の 先行ユーザー

政策決定者
(基礎自治体)

政策立案支援者
(コンサルタント)

運輸事業者

モチベーション アップ・維持

再生塾[基礎編](5月)

エッセンシャル・セミナー(不定期)

エコモ財団[EST創発セミナー](5、11月)

JCOMM(8月)

くらしの足をみんなで考える
全国フォーラム(10月)

IBS[MM技術講習](10月)

Qサポネット(不定期)

コモゴモ(不定期)

知識獲得

全国建設研修センター
(4月、11月)

国土交通大学校(8月等)

運輸局セミナー(年1~2回)

JCoMaaS(通年)

再生塾[イブニングセミナー]
(通年)

再生塾[技術セミナー](9月)

じっくり議論 見識アップ

エコモ財団[地域の交通環境
対策推進者養成研修会]
(9月)

再生塾[アドバンスドコース]
(8~12月)

地域公共交通コーディネーター・プロデューサー養成プロジェクト(10~1月)

公共交通マーケティング研究会(不定期)

みんなで議論 チームビルディング

MCDC

2-3 研究開発の進捗／カリキュラムマップ

人材育成カリキュラム：仮説カリキュラム・マップ構築

- 研究開発成果の先行ユーザーとして政策決定者（基礎自治体）、政策立案支援者（コンサルタント）、運輸事業者を設定し、既存の人材育成プログラムを効果的に組み合わせた**仮説カリキュラム・マップ**を構築した。

研究開発成果の
先行ユーザー

政策決定者
(基礎自治体)

交通行政の
経験がない
係長クラス

モチベーション
アップ・維持

再生塾[基礎編](5月)
 エssenシャル・セミナー(不定期)
 エコモ財団[EST創発セミナー](5、11月)
 JCOMM(8月)
 暮らしの足をみんなで考える
 全国フォーラム(10月)
 IBS[MM技術講習](10月)
 Qサポネット(不定期)
 コモゴモ(不定期)

知識獲得

全国建設研修センター
(4月、11月)
 国土交通大学校(8月等)
 運輸局セミナー(年1~2回)
 JCoMaaS(通年)
 再生塾[イブニングセミナー]
(通年)
 再生塾[技術セミナー](9月)

じっくり議論
見識アップ

エコモ財団[地域の交通環境
対策推進者養成研修会]
(9月)
 再生塾[アドバンスドコース]
(8~12月)
 地域公共交通コーディネー
ター・プロデューサー養成プロ
ジェクト(10~1月)
 公共交通マーケティング研究
会(不定期)

みんなで議論
チームビルディング

MCDC

2-3 研究開発の進捗／カリキュラムマップ

人材育成カリキュラム：仮説カリキュラム・マップ構築

- 研究開発成果の先行ユーザーとして政策決定者（基礎自治体）、政策立案支援者（コンサルタント）、運輸事業者を設定し、既存の人材育成プログラムを効果的に組み合わせた**仮説カリキュラム・マップ**を構築した。

研究開発成果の
先行ユーザー

新入社員

政策立案支援者
(コンサルタント)

モチベーション
アップ・維持

再生塾[基礎編](5月)
エッセンシャル・セミナー(不定期)
エコモ財団[EST創発セミナー](5、11月)
JCOMM(8月)
くらしの足をみんなで考える
全国フォーラム(10月)
IBS[MM技術講習](10月)
Qサポネット(不定期)
コモゴモ(不定期)

知識獲得

全国建設研修センター
(4月、11月)
国土交通大学校(8月等)
運輸局セミナー(年1~2回)
JCoMaaS(通年)
再生塾[イブニングセミナー]
(通年)
再生塾[技術セミナー](9月)

じっくり議論
見識アップ

エコモ財団[地域の交通環境
対策推進者養成研修会]
(9月)
再生塾[アドバンスドコース]
(8~12月)
地域公共交通コーディネーター・プロデューサー養成プロジェクト(10~1月)
公共交通マーケティング研究会
(不定期)

みんなで議論
チームビルディング

MCDC

2-3 研究開発の進捗／カリキュラムマップ

人材育成カリキュラム：仮説カリキュラム・マップ構築

- 研究開発成果の先行ユーザーとして政策決定者（基礎自治体）、政策立案支援者（コンサルタント）、運輸事業者を設定し、既存の人材育成プログラムを効果的に組み合わせた**仮説カリキュラム・マップ**を構築した。

研究開発成果の
先行ユーザー

中堅クラス
30～40代

運輸事業者

モチベーション
アップ・維持

再生塾[基礎編](5月)
エッセンシャル・セミナー(不定期)
エコモ財団[EST創発セミナー](5、11月)
JCOMM(8月)
くらしの足をみんなで考える
全国フォーラム(10月)
IBS[MM技術講習](10月)
Qサポネット(不定期)
コモゴモ(不定期)

知識獲得

全国建設研修センター
(4月、11月)
国土交通大学校(8月等)
運輸局セミナー(年1～2回)
JCoMaaS(通年)
再生塾[イブニングセミナー]
(通年)
再生塾[技術セミナー](9月)

じっくり議論
見識アップ

エコモ財団[地域の交通環境
対策推進者養成研修会]
(9月)
再生塾[アドバンスドコース]
(8～12月)
地域公共交通コーディネー
ター・プロデューサー養成プロ
ジェクト(10～1月)
公共交通マーケティング研究
会(不定期)

みんなで議論
チームビルディング

MCDC

2-3 研究開発の進捗／カリキュラムマップ

カリキュラム・マップ構築

- 地域公共交通の現状を把握することにより、
- カリキュラム・マップに落としこむことで、経験した体験を振り返って整理できた
- 各人材育成プログラムの有効性を体感できた。

2023年10月～2025年1月にかけて受講す

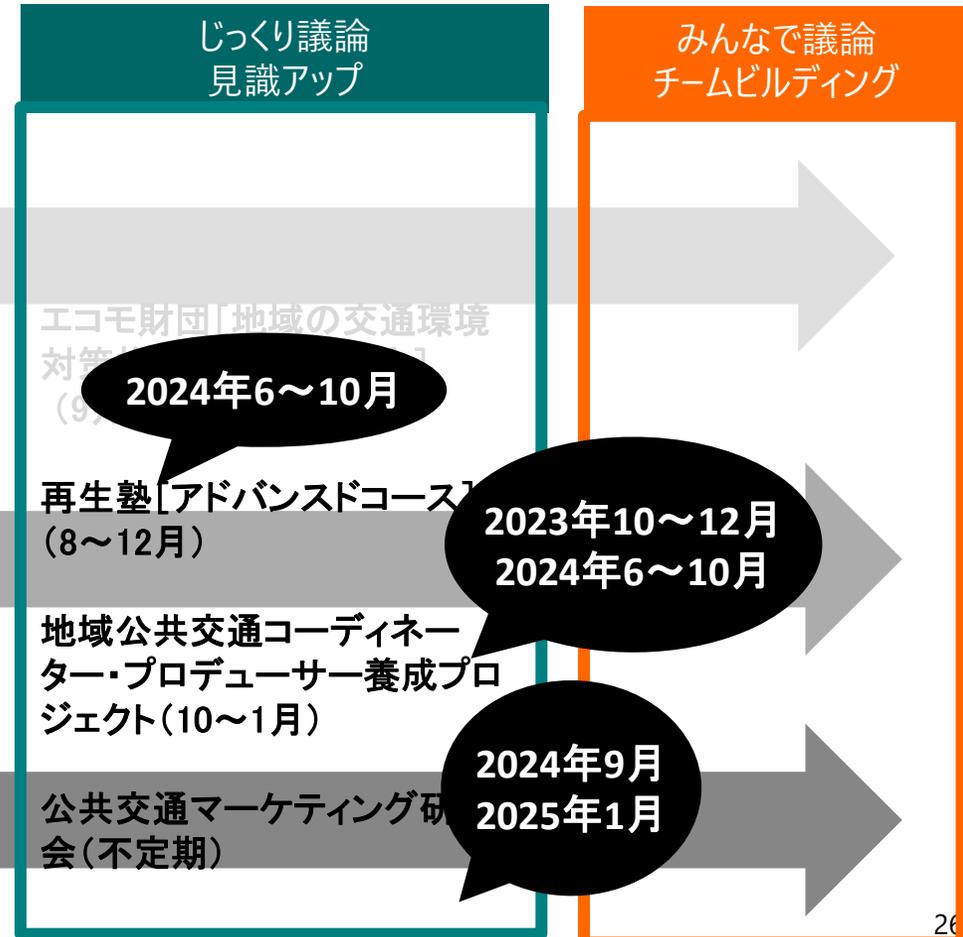
研究開発成果の先行ユーザー



自動車メーカー 30代男性

		④ 第一歩	② 仲間	③ 知識獲得	① 考える力
モチベーション アップ・獲得	A	○	○	○	
	B		○	○	○
	C		◎		
	D	◎	○	○	
知識獲得	E			◎	
	F		△	◎	
	G			○	○
じっくり議論	H		△	◎	
	I			◎	
	J			◎	
	K		○		◎

◎: 特にあてはまる ○あてはまる △ややあてはまる



2-3 研究開発の進捗／カリキュラムマップ

カリキュラム・マップの
人材育成目的

神田メソッド
の各フェーズ

人材育成カリキュラム：神田メソッドフェーズ(縦軸) × 人材育成目的(横軸) の参加・活用イメージ

(実践)必要なスキルと育成方法

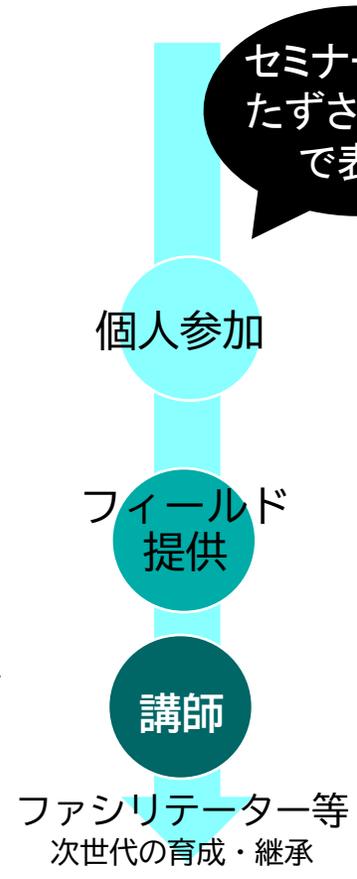
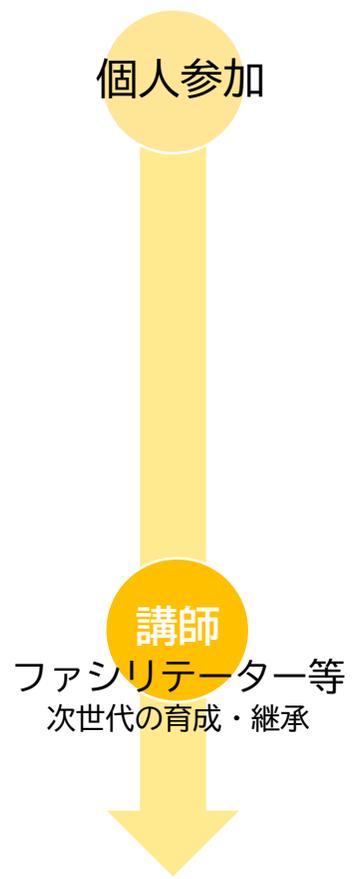
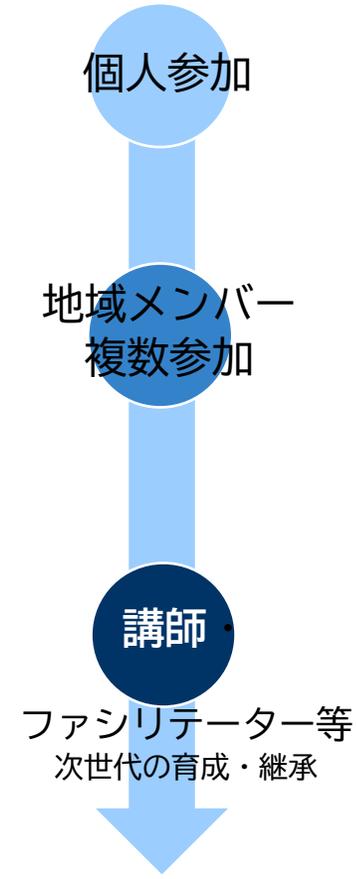
モチベーション
アップ・維持
例：再生塾基礎編

知識獲得
例：運輸局セミナー

じっくり議論・見識アップ
例：再生塾アドバンスドコース

みんなで議論
チームビルディング
例：MCDC

Phase1 立ち上げ期	<ul style="list-style-type: none"> 目的にあった実証実験を企画・実行し、目的を達成させる能力 評価・課題の抽出ができる能力 <p>一般的なセミナーの受講(受動的) 学会等へ参加し聴講</p>
Phase2 組成期	<ul style="list-style-type: none"> 他地域事例、技術動向を把握し、さらに高度な実証を企画・評価できる能力 技術のパーツを実装できるようにする能力 <p>他地域の類似事例の視察 学会等へ参加し事例を発表</p>
Phase3 膨張・拡大期	<ul style="list-style-type: none"> 地域が目指すべき方向から外れずに、内部人材と外部人材を結びつける能力 <p>モビリティセミナーの企画・開催誘致 産官学横断交流イベントへの参加 複数のコミュニティメンバーでの視察・議論</p>
Phase4 収斂・本質化	<ul style="list-style-type: none"> ビジョン、ミッション、戦略、戦術を描ける能力 コミュニケーション戦略を描き実行できる能力 <p>コミュニティ横断ミーティングの企画・参加</p>
Phase5 自律化・持続化	<ul style="list-style-type: none"> 安定してコミュニティのパフォーマンスを発揮できる組織を形成する能力 <p>組織運営に関する学習・事例収集</p>



セミナーへの
たずさわり方
で表現

※プログラムのバリエーションを踏まえた体系的な整理、全体的な課題・対応方法について今後検討を進める

04 カリキュラム マップ

既存のセミナー・カンファレンス・MCDCを組み合わせた
人材育成カリキュラムマップの妥当性を

- ・既存の人材育成プログラム主催者へのヒアリング
- ・MCDC参加者へのインタビュー等により

定量的・定性的に検討予定

05

モビリティ知恵袋 (WEBプラットフォーム)

問題意識

適切な教材やツールを見つけられない
(情報一元化や紹介する仕組みが必要)

研究方向性

学習に活用可能な教材・ツール等を
一元管理・共有できるWEBプラットフォーム
を構築

SiPでの開発内容



- ・WEBページを構築
- ・搭載する教材・ツール等を制作、収集 (随時)

SiPにて
新たにWebページを
構築、発信中

2-3 研究開発の進捗／モビリティ知恵袋

とつぜんですが、みなさんには

毎日、何となくアクセスしてしまう／見てしまうWEBサイト、ありませんか？

どんなサイトでしょうか？

- 1)興味のある情報が掲載されている
- 2)毎日、何かしら新しい情報が掲載されている (情報が更新されている)
- 3)ニュース・読み物・イベント情報など、バラエティに富んだ情報が掲載されている
- 4)インタラクティブなコミュニケーションが可能で、【自分が参加している】感がある
- 5)興味のある情報が掲載されている

地域モビリティに関わる人々向けに、そんなWEBサイトを創りたい!

2-3 研究開発の進捗／モビリティ知恵袋



<https://mobility-chiebukuro.jp/>

■ **まだまだ理想にはほど遠い，道半ば。**
SIP終了後にも継続すべくその方途を検討中
更新が前提の動的な情報・静的な情報に分類して分担？

■ **情報追加・更新中**
ぜひアクセスして，ご感想・ご意見をお寄せください。

■ **イベント・セミナー情報などお寄せください。**
こちらで内容確認の上，掲載させていただきます。

類似サイトに
相互リンク
で連携したい

国などの
補助金情報
なども掲載したい

こんなこといいな できたらいいな あんなゆめ こんなゆめ いっぱいあるけど．．．
という段階ですが，SIP第三期中にコンテンツの充実・継続の仕組みづくりを進めます

2-2 研究開発の進捗／ナレッジフィードバックの場・仕組みづくり

モビリティ知恵袋：HP立ち上げ



① 知ろう・調べよう・楽しもう

- 世界Mobility News 【稼働中】
- 総動員チップス (国外編) 【稼働中】 ※IBSコンソ連携
- 総動員チップス (国内編) 【R7年度実装】 ※IBSコンソ連携
- モビリティの導入改善やMMの参考となる図書・論文【稼働中】

② 物語を感じて、新たな物語を生み出そう

- 人物にまつわる物語 【稼働中】
- 地域モビリティ物語 【稼働中】

③ ツールを使い実践してみよう

- Mobility Managementツール【稼働中】
- コミュニティ状況診断ツール【R7年度実装】

④ 学ぼう、伝えよう、繋ごう

- セミナー・イベント情報 【稼働中】
- 活用可能な事業 【R7年度実装】

2-2 研究開発の進捗 / ナレッジフィードバックの場・仕組みづくり

モビリティ知恵袋：HP立ち上げ

① 知ろう・調べよう・楽しもう

IBS 牧村さん提供
国内外の地域モビリティ
関連ニュース
★すごい情報です!★

世界モビリティニュース 2025年1月



ニューヨーク：「渋滞税」導入で成果、マンハッタン中心部で交通量減少

New York City's Congestion Zone Map

newsdig.tbs.co.jp

NY市「渋滞税」導入で成果、マンハッタン中心部で交通量減少 | TBS CROSS DIG with Bloomberg

(ブルームバーグ)：米ニューヨーク市マンハッタン中心部に乗り入れる車に対して「渋滞税」が1月5日に導入された結果、6～10日の対象区域の交通量が7.5%減少した。マンハッタンに走る大半の主要道路で朝の...

バンコク：バンコクの公共交通、期間限定で無料 タイ政府が大気汚染対策 - 日本経済新聞

www.nikkei.com

バンコクの公共交通、期間限定で無料 タイ政府が大気汚染対策 - 日本経済新聞

【バンコク=井上航介】タイ政府は24日、首都バンコクの全ての公共交通機関の運賃を期間限定で無料にすると発表した。同国では連日による大気汚染が深刻な状況にある。市民の自家用車の利用を減らし、汚染の緩和を...

総動員チップス (国外編)

2024年12月30日

政府主導のリ・デザインデータ基盤、フランス政府



2025年1月31日

政府主導のライドシェア（相乗り）政策、フランス政府



2025年1月31日

若者向け限定の公共交通乗り放題実験、フランス政府



2025年1月31日

都市交通戦略ガイドラインの役割と実践（PDMを中心に）、Cerema（フランス）

政府主導のリ・デザインデータ基盤、フランス政府



国内外の
優良事例
IBSコンソと連携

背景

公共交通や新たなモビリティサービスに関するデータを民間企業が保有するようになったため、世界各国の行政では、施策の検討や検証に必要な情報やデータが不十分になったという不満が高まっています。特にヨーロッパでは、交通や日常生活に関する多くのデータが、GAFAs等に代表される大手IT企業に独占されているのではないかと強い懸念がありました。

そこでEU（欧州委員会）では、2017年5月31日付のマルチモーダル旅行情報サービスの利用可能性に関する規則によって（Le règlement (UE) n° 2017/1926）、モビリティデータを参照する国家アクセスポイント（NAP）を作成することを義務付けました。

このEU規則に従ってフランス政府・モビリティ移行省は、ポータルサイト「transport.data.gouv.fr」をマルチモーダル情報データのNAPに指定したのです（décret 2020-183）。さらに、2019年に新たに施行されたLOM法（Loi d'orientation des mobilités）の第25条および第27条では、AOM[※]、交通事業者、交通プロバイダー、インフラ管理者がポータルを通じて、旅客情報に必要なサービスやネットワークからのデータを利用できるように義務付けました。

モビリティ移行省のオープンデータ化には、おおきく3つの目的があります。

1. 交通分野のイノベーション推進
IT・定量化により交通分野イノベーションをもちらし、エコシステム・経済活性化につながる
2. ユーザーの利便性向上
ダイヤ・経路案内等の基本的なところから、リアルタイム情報、エコな交通手段の選択を提供する
3. インターコネクションの共通化
様々な交通事業者の情報接続の整合性を図り共通化する

2-2 研究開発の進捗 / ナレッジフィードバックの場・仕組みづくり

モビリティ知恵袋：HP立ち上げ

① 知ろう・調べよう・楽しもう

モビリティ・マネジメントに関する論文

2025年2月14日
モビリティ・マネジメントにおける効果に関する研究

2025年2月14日
全市民対象のMMツール開発とその効果-ブランディング及びコストダウンのプロセスに着目して-

2025年2月14日
地方都市でタクシーはバスを補完することができるか? ~市内バス全線定期券保有者へのタクシー初乗無料券配布実験の実証分析~

2025年2月14日
地方都市の路線バスにおけるサブスクリプション型運賃の導入プロセスと効果の実証分析

参考となり得る
論文

全市民対象のMMツール開発とその効果-ブランディング及びコストダウンのプロセスに着目して-

浅見知秀, 谷口綾子, 片桐暁, 斎藤綾, 上原泰典, 内田直人
土木学会論文集D3特別企画 (土木計画学: 政策と実践), Vol.78, No.6, II_1-II_18, 2022

栃木県小山市では、全市民16.7万人を対象に、コミュニティバスの利用促進のためのブランディングの手法を用いた低コストのモビリティ・マネジメント (MM) を実施した。本研究では、開発したMMツールについて、如何にブランディングしたか、如何にコストダウンを果たしたか、これまで暗黙知として共有されてこなかったツールの制作プロセスを記述することで、MMを実施する際の実務上の留意点、工夫点を明らかにする。加えて、アンケート調査によってMMが市民の意識や行動に与えた影響、定期券の販売データ集計によってMMがバス運営に与えた影響を明らかにする。

土木学会論文集D3(土木計画学), Vol. 78, No. 6, II_1-II_18, 2022.

全市民対象の MM ツール開発とその効果
-ブランディング及びコストダウン
のプロセスに着目して-

浅見 知秀¹・谷口 綾子²・片桐 暁³・斎藤 綾⁴・上原 泰典⁵・内田 直人⁵

¹正会員 小山市都市整備部 (〒323-8686 栃木県小山市中央町1-1-1)
E-mail: 32318-azumi@city.oyama.nagasaki.jp (Corresponding Author)

地域の物語が自治体職員の地域愛着に与える影響の検証ーかしてつバス導入時の事例ー

浅見知秀, 谷口綾子, 片桐暁, 斎藤綾, 上原泰典, 内田直人
土木学会論文集D3特別企画 (土木計画学: 政策と実践), Vol.78, No.6, II_1-II_18, 2022

本研究では、2010年8月に実施したインタビューより作成し、職員教育に活用された地域の物語が自治体職員の地域愛着に与える影響を年表にまとめた資料を読み解き、その効果があるかを分析した。その結果、物語が地域愛着に与える影響を量的に示された。さらに、資料群の感想は、地域愛着の重要性を大切さや人とのつながりの大切さといった観点から把握することができた。

土木学会論文集D3(土木計画学), Vol. 78, No. 6, II_1-II_18, 2022.

地域の物語が自治体職員の地域愛着に与える
影響の検証ーかしてつバス導入時の事例ー

谷口 綾子¹・宮川 雅典²・石田 東生³

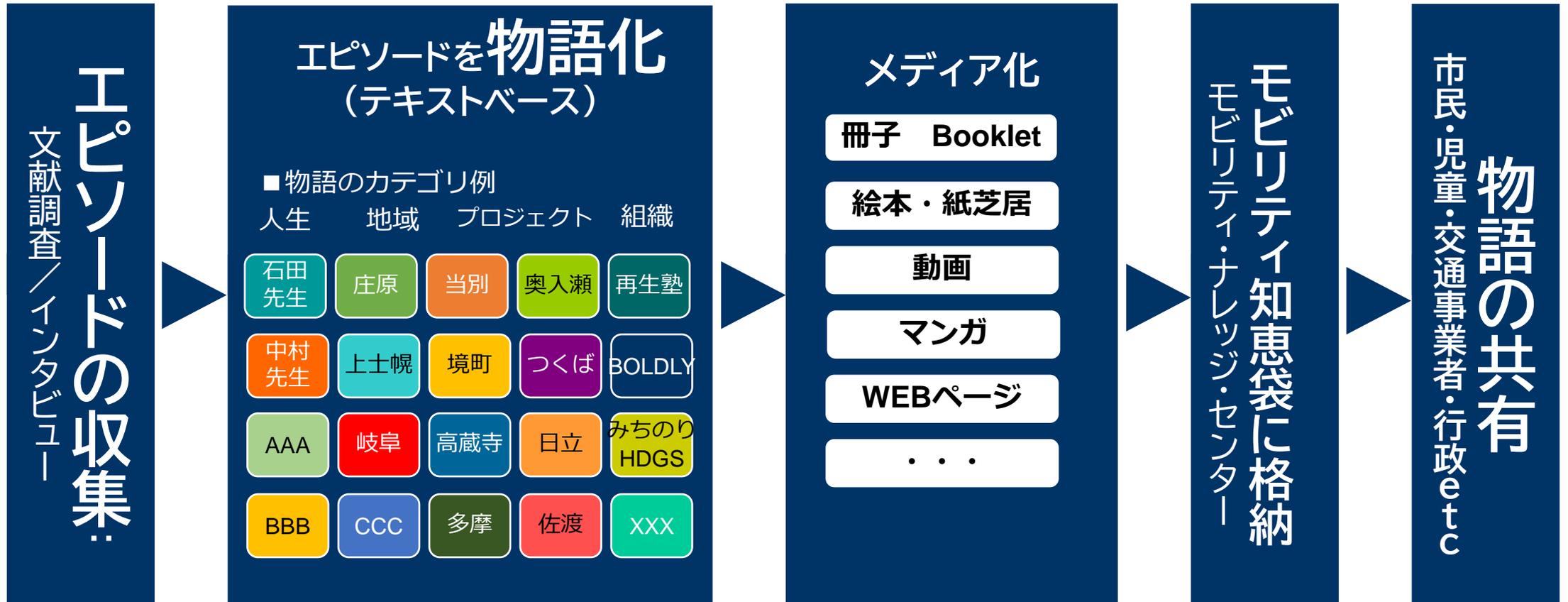
¹正会員 東海大学工学部教授 システム情報工学研究室 (〒305-8575 茨城県つくば市天王台14-14)
E-mail: kataguchi@isekai.ac.jp

²正会員 職大市役所 (〒251-8601 神奈川県横浜市磯子区1-1-1)

今後は
参考となり得る
論説コーナー
設置したい
【石田東生先生】
【中村文彦先生】
【森川高行先生】
【藤原章正先生】
【牧村和彦博士】
などなど...

②物語を感じて、新たな物語を生み出そう

■物語の構築・共有プロセスのイメージ



共有の場： 住民説明会, 学校教育, 研修会, WS, 研修会, お祭り, イベント, etc.

2-2 研究開発の進捗 / ナレッジフィードバックの場・仕組みづくり

モビリティ知恵袋：HP立ち上げ

②物語を感じて、新たな物語を生み出そう

私のつまらない履歴書



**森川先生
物語**

森川 高行 様 (名古屋大学 未来社会創造機構 モビリティ社会研究所)

略歴：
神戸市須磨区生まれ。1981年に京都大学工学部交通土木工学科卒業。1983年同大学院工学研究科交通土木工学専攻修士課程を修了。1985年米国マサチューセッツ工科大学大学院土木工学科へ留学。1991年名古屋大学助教授、2000年に同大学大学院教授に就任。2014年に名古屋大学未来社会創造機構へ異動し、現在に至る。

<主な著書>
「交通行動の分析とモデリング」(共編著) 技報堂出版 (2002年)
「道路は、だれのものか」ダイヤモンド社 (2010年)
「モビリティイノベーションシリーズ1巻 モビリティサービス」(共編著) コロナ社 (2020年)

名古屋大学 未来社会創造機構 モビリティ社会研究所で地域を次世代につなぐマイモビリティ共創拠点長・プロジェクトリーダーを務める森川 高行 先生の生い立ちから、これまでの活躍がまとめられた貴重な資料をお預かりいたしました。モビリティ知恵袋のコンテンツとして公開させていただきます。

再生塾という物語 -持続可能なまちと交通をめざして-



**再生塾
人材育成への
熱い思いと
試行錯誤**

2025年1月作成
著者 片桐 暁
監修 / インタビュー 筑波大学教授 谷口 綾子
編集 / インタビュー / 文字起こし 筑波大学学生 4年 大月 崇義
協力 吉田 泰基

[もくじ \[表示\]](#)

序章 モータリゼーションの行方

モータリゼーションとは、クルマの大衆化や、クルマが日常的に利用される社会状態を指すことばかり、ここ日本においては、1960年代以降に始まり、地方部で現在も続いている。この社会現象を、単にクルマが普及しクルマの台数が増えることと捉えてしまうと、この本質を見誤る。
道路の容量を超えたクルマが流入すると、渋滞が引き起こされる。渋滞に対応するために、さらなる道路

見附市 健幸まちづくり物語 I



**新潟県見附市
新旧二人の市長が紡ぐ
健幸まちづくり物語**

見附市 健幸まちづくり物語

健幸まちづくり物語
新潟県見附市の市長たちを主人公として
2024年1月10日発行

著者 片桐 暁
監修 / インタビュー 筑波大学教授 谷口 綾子
編集 / インタビュー / 文字起こし 筑波大学学生 4年 林 凜太郎

[もくじ \[表示\]](#)

『ガチャ万』——商社への憧れと就職

南北に伸びる細長い新潟県のちょうど地理的に中心の位置に、見附というまちがある。県内でもっとも面積の小さい市であるが、平成の大合併の波にも飲まれず独自のまちづくりを選択し、現在に至っているユニークなまちである。
のちに見附市長となり、そうした意思決定にも大いに腕を振るうことになる久住 (くすみ) 時男は、その

2-2 研究開発の進捗 / ナレッジフィードバックの場・仕組みづくり

モビリティ知恵袋：HP立ち上げ

③ ツールを使い実践してみよう

地域モビリティ
活性化に使える
ツール

別所線と太陽エネルギーと塩田ぐらしと



別所線と太陽エネルギーと
塩田ぐらしと

別所線が走り、日本でも有数の太陽発電量を誇る塩田地域。この地域が住みやすく、生活が豊かで、持続可能になるように、住民の声を集める取り組みを行いました。

本冊子では、別所線の魅力や沿線の暮らし、地域のエネルギー活用の取り組みを紹介しています。各ページの内容はアンケートの設問と連動しており、読み進めながら回答することで、地域の現状や未来の可能性をより深く知ることができます。

別所線と太陽エネルギーと塩田ぐらしと

別所線の魅力を伝えるために、駅を利用する方々から寄せられた置き傘が掛けられています。

駅舎にある置き傘の様子（中野駅）

このページを読んだら、アンケートF5に答えてください。

0:25 / 0:25

④ 学ぼう、伝えよう、繋ごう

セミナー・イベント情報

北陸信越局運輸局

- 地域公共交通分野における共創推進シンポジウム
 - 日時：2025年2月26日 13:30～16:30
 - 場所：JA長野県ビル12階B会議室
 - 申込み：https://questant.jp/q/F0E798R0 ※×切2/21

持続可能なまちと交通をめざす再生塾

- URL：https://saiseijuku.net/
- 2025年度 基礎編セミナー
 - 日時：2025年5月 開催予定
 - 場所：調整中
 - 申込み：直近募集開始予定
- 2025年度 アドバンスドコース
 - 日時：2025年9月 開催予定
 - 場所：調整中
 - 申込み：2025年7月頃募集開始予定
- 2025年度 技術セミナー
 - 日時：2025年7月～12月 開催予定
 - 場所：調整中
 - 申込み：2025年5月頃募集開始予定

日本モビリティ・マネジメント会議（JCOMM）

- URL：https://www.jcommor.jp/
- 第20回日本モビリティ・マネジメント会議

セミナー・
イベント・
いずれ補助金情報も



● Mobility Management参考ツール：PDFによる無償提供

● セミナー・イベント情報

05

モビリティ知恵袋（WEBプラットフォーム）

今後も拡充予定。
ぜひともブックマークしていただき、
忌憚なきコメントをいただけると幸いです。

06 自動運転システム の社会的受容

問題意識

自動運転システムの社会的受容をどう評価・計測するのか。社会的受容の規定因は？

研究方向性

社会的受容計測のための標準的アンケート調査票の開発
人々に受容される自動運転バスのエクステリア検討

SiPでの開発内容

- ・自動運転実証実験地域でのアンケート調査実施，分析
- ・自動運転の社会的受容計測のための標準指標提案
- ・自動運転バスのエクステリアが社会的受容に与える影響評価，モデル提案のためのコンペ開催

2-4 研究開発の進捗 / 自動運転システムの社会的受容

自動運転システム_社会的受容に外見(エクステリア)が与える影響把握と、望ましいエクステリアのモデル構築



【Research Question】

だいじ

自動運転バスの見た目は大事?

例えば左図のようなかわいらしいフォルムのクルマなら
低速走行やスタック時にもイラッとせずに受け入れてもらえる?
(※エクステリア=外見・見た目・デザイン・外装)



どの自動運転バスが好き？
理由は？

どの自動運転バスがきれい？
理由は？

進捗

調査1：インタビュー調査（右図）

- 多様な自動運転バスの外見を示し、選好性を把握

調査2：WEBアンケート調査（次ページp39に記載）

- インタビュー調査の結果を踏まえて6つの異なるエクステリアモデルを示し、アンケート調査から「態度配慮行動」の差異を定量的に分析

イベント：自動運転バスのエクステリアコンペ開催

- 調査結果を踏まえ、エクステリアを公募
→ みんなに受け入れられる自動運転バスの車両形状・ラッピングモデル構築

アウトプット1：自動運転バスのエクステリア要件提案

- 社会的受容やコスト等の観点からエクステリア要件を定義・提案

アウトプット2：コンペ開催(イメージの具体化)/ナラティブ化

- コンペで優良なエクステリアデザインを募集し、イメージを具体化
- すべてのプロセスをエピソードとして物語化し、モビリティナレッジセンターに蓄積・共有

R7

自動運転バスのエクステリア要件の検討 調査2 WEBアンケートの詳細・結果・考察

A：車両画像のみ提示

□態度・乗車意図

→弱い車両・速い車両

□Avs態度・配慮行動意図

→かわいい車両(高) > 強い車両 (低)

B：具体的な状況をイラストで提示 (渋滞・立往生)

□渋滞時のイラっと度

→弱い車両 (低)

< 近未来な車両 (高)



これらのバスがスタックしてるのを許せる？

【みんなの評価結果を考察すると】

弱い車両：レトロっぽくて不具合出そう。トラブルも許してあげるか

近未来な車両：性能よさそうなのにトラブル = イラっとする

かわいい車両：かわいい！けどトラブル場面ではあざとさを感じる



弱い・古そうな外見の車両は近未来的な車両より許される

2-4 研究開発の進捗 / 自動運

自動運転システム_社会的受容計測のための標準指標 提案

- 実証実験・本格導入が進められている各地のAVs社会的受容の特徴を明らかにし、比較可能にするため、標準指標を作成
- 当時最善と思われた調査票を用いた調査分析
 - 賛否意識を従属変数とした重回帰分析の**決定係数**調整済みR2値**0.5程度**
 - **標準調査指標**を提案

サンフランシスコ, フェニックス, 日立, 十和田, 当別のバス利用者, 住民, 観光客等

標準指標運用例

事前調査

運行

事後調査



経年調査

運行毎・経年での調査実施により、継続的な変化を把握可能

平均値の差のt検定を行うことで、実証運行前後の社会的受容の**比較が可能!**

【調査対象者】
・住民
・乗客でない来訪者
・タクシー・バスなどのプロドライバー

先行ユーザー：自治体、交通事業者、自動運転ベンダー
FY25以降は、調査地を増やし、**国交省・経産省の実験要件に反映**
FY27末以降は日本の標準指標として活用、海外でも活用をPR

優先度	番号	質問項目	質問文
◎	1_1	生年月日(年齢)	あなたの生年月日をお答えください
◎	1_2	郵便番号	あなたの住所の郵便番号をお答えください
◎	2	性別	当する性別をお答えください
△	3	学歴	学歴を教えてください
○	4	職業	職業を教えてください
△	5	世帯年収	年度の貴方が属する世帯年収(税込み)をお答えください
◎	6	免許	普通・準中型・中型・大型のいずれかの免許をお持ちですか?
◎	7_1	AVs利用意図_バス	自動運転バスを使いたい
◎	7_2	AVs利用意図_タクシー	自動運転タクシーを使いたい
◎	7_3	AVs利用意図_自家用車	自動運転の自家用車を使いたい
◎	7_4	AVs利用意図_バス導入賛否	自動運転バスを〇〇町に導入することに賛成である
◎	7_5	AVs利用意図_無人バス導入賛否	無人自動運転バス(運転士や車掌さんのような【乗務員】が一切いない)を〇〇町に導入することに賛成である
△	8_1	CP_一心同体	自分と自分の住む地域が同じ心で行動する
△	8_2	CP_地域好き	〇〇町が好き
△	8_3	CP_地域住み続ける	〇〇町に住み続けたい
◎	8_4	CP_地域誇り	〇〇町を誇りたい
◎	9_1	AVs態度_うれしい	自動運転バスに乗るとうれしい
○	9_2	AVs態度_運が悪かった	自動運転バスに乗ると運が悪かった
○	9_3	AVs態度_誇り	〇〇町を誇りたい
◎	10_1	AVs配慮行動意図_見守り	自動運転バスに乗ると見守りをしてほしい
○	10_2	AVs配慮行動意図_路上駐車	自動運転バスに乗ると路上駐車をしてほしくない
○	10_3	AVs配慮行動意図_追い抜きたい	自動運転バスに乗ると追い抜きたい
○	11_1	技術信頼	自動運転の技術に信頼がある
○	11_2	行政信頼	自動運転に関する政府・自治体の対応に信頼がある
△	11_3	関連企業信頼	自動運転に関する保険など「社会的な仕組み」をつくる企業に信頼がある
△	11_4	開発企業信頼	自動運転のシステムをつくる企業に信頼がある
◎	12_1	リスク認知_恐ろしさ	自動運転システムを恐ろしいと思いますか
◎	12_2	リスク認知_未知性	自動運転システムについて良く知っていると思いますか
◎	12_3	リスク認知_制御可能性	ご自身のスキルや努力によって、自動運転システムによる事故を避けることができると思いますか
◎	13_1	AVsバス態度_うれしい	移動が楽しくなる
◎	13_2	AVsバス態度_快適	移動が快適になる

優先順が明確に ◎・○・△

国交省 自動車局
経産省・地方自治体の方々へ
今後実施される実証実験の
効果計測指標として
ぜひご活用ください。

願わくば、
実証実験の要件
としていただきたい

ありがとうございました



Public Psychology Lab., University of Tsukuba